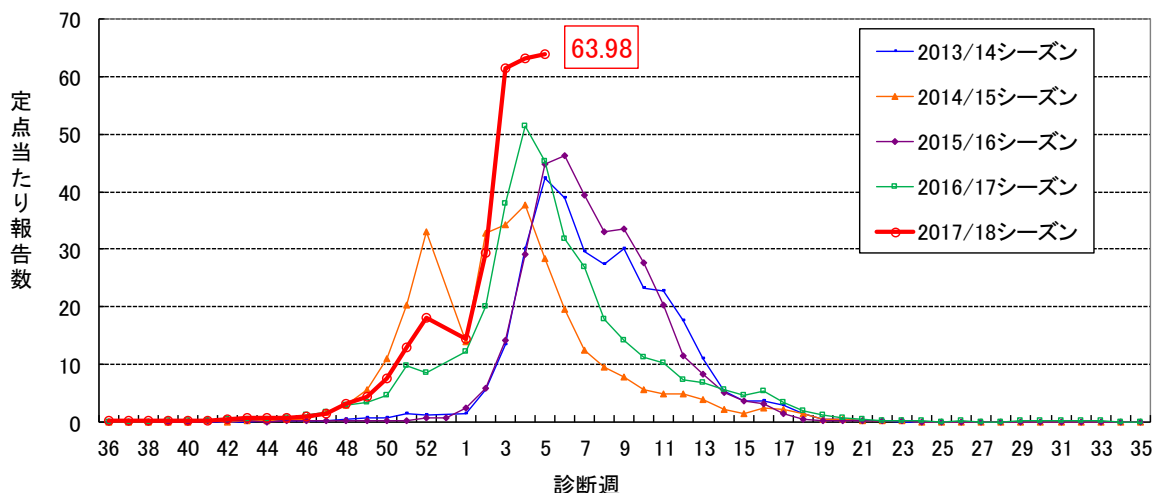


【今週の注目疾患】

【インフルエンザ】

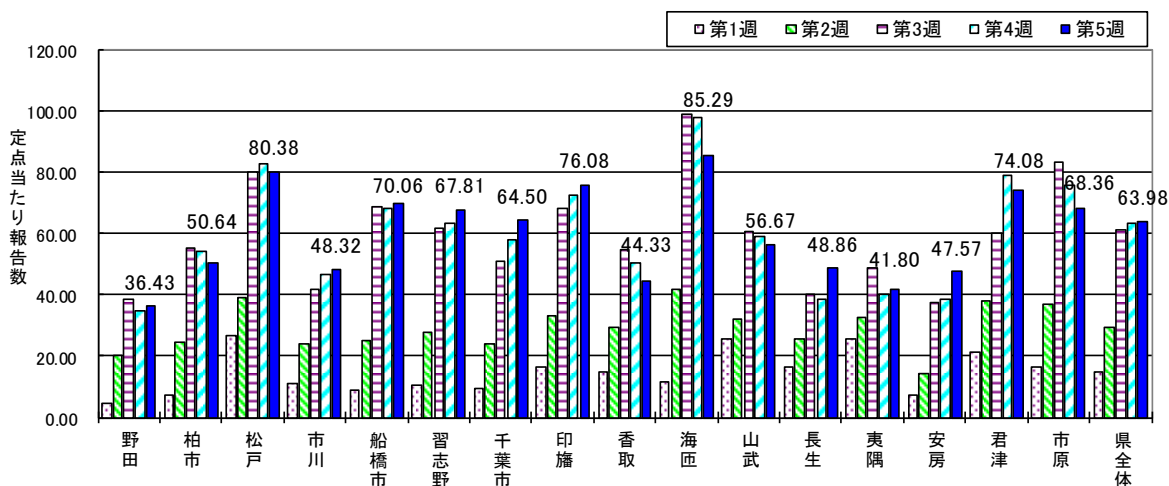
2018年第5週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数は63.98(人)となり前週(63.24)より増加し、また3週続けて定点当たり報告数60を超えた(図1)。

図1: 2013～2018年第5週に県内定点医療機関から報告されたインフルエンザの定点当たり報告数の推移(シーズン別)



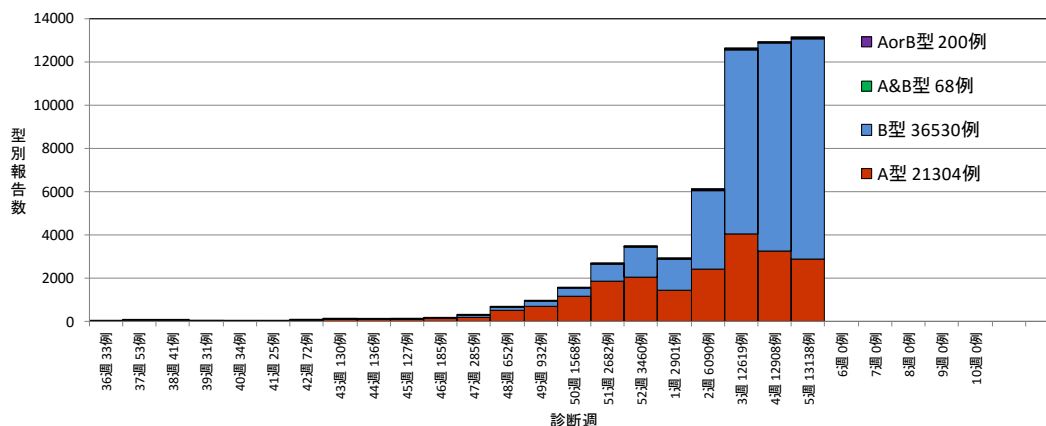
県内16保健所管内(千葉市、船橋市および柏市含む)のうち、9保健所管内において前週より報告が増加した。県レベルでの定点当たり報告数(63.98)を超える保健所管内は、報告の多い順に海匝(85.29)、松戸(80.38)、印旛(76.08)、君津(74.08)、船橋市(70.06)、市原(68.36)、習志野(67.81)、千葉市(64.50)であった(図2)。

図2: 直近5週のインフルエンザの定点当たり報告数の推移(保健所別)



年齢群別報告割合では、5～9歳(32.1%、前週33.4%)、10～14歳(20.0%、前週19.2%)、0～4歳(14.5%、前週15.4%)が多かった。第5週の県内の小児科・インフルエンザ定点医療機関の協力による迅速診断結果13,138例の報告は、A型2,878例(21.9%)、B型10,191例(77.6%)、A and B型15例(0.1%)、A or B型54例(0.4%)であった。A型の減少とB型の増加が引き続き認められた(図3)。

図3: 県内定点医療機関の協力によるインフルエンザ型別迅速診断報告数の推移



2017/18シーズン合計では、58,102例中 A型 21,303例(36.7%)、B型 36,530例(62.9%)、A and B型 68例(0.1%)、A or B型 201例(0.3%)となった。基幹定点(9医療機関)からのインフルエンザ入院サーベイランス報告においては63例の報告を認め、前週(79例)から減少した。年齢群別では80歳以上21例、70代16例、60代8例、50代2例、40代2例、30代1例、20代1例、10代2例、5～9歳7例、1～4歳3例、1歳未満0例であった。

【百日咳】

2018年1月1日より百日咳は5類全数把握疾患となり、届出基準も臨床診断例から検査診断例となった。以降、県内では第5週までに4保健所管内から7例の届出を認めており、届出例は男性5例、女性2例であり、年齢群は5～9歳4例、10～14歳1例、20代1例、60代1例であり、症状(重複あり)は「持続する咳」6例、「夜間の咳き込み」3例、「呼吸苦」1例、「スタッカート」1例であった。診断方法は3例がLAMP法であり、4例は抗体検査によるものであった。ワクチン接種歴は4例が4回接種、3例が接種歴不明であった(表)。推定感染原因・経路は5例に記載があり、いずれも家族内感染であった。ワクチン接種歴がある場合や成人では典型的な百日咳症状を呈さないことが多く、このため成人を含む百日咳患者の発生動向を適時かつ正確に把握するため届出基準等の変更がなされたが、基準変更後に届出のあった2例の成人例においても、症状は「持続する咳」のみであった。検査診断例による全数把握疾患となり、今後百日咳の国内における疫学がより詳細になることが期待される。

表：2018年第1～5週に県内医療機関から届け出られた百日咳の状況

年齢群	性別		症状(重複あり)				診断方法		ワクチン接種歴	
	男性	女性	持続する咳	夜間の咳き込み	呼吸苦	スタッカート	LAMP法等	抗体検査	不明	4回(以上)
0歳										
1～4歳										
5～9歳	4		4	2	1	1	2	2	2	2
10～14歳		1		1			1			1
15～19歳								1		
20代		1	1							1
30代										
40代										
50代										
60代	1		1					1	1	
70歳以上										
合計	5	2	6	3	1	1	3	4	3	4

列項目については該当があったもののみ記載